

僧服に関する研究(第10報) - 鎌倉時代の法衣について -
 大阪女子短大 弓削公子

〔目的〕 鎌倉時代に渡来した禅宗の僧衣の中で、殊に臨済宗の礼袂として用いられていた道具衣の形状の内外両面について現存する資料をもとに更に詳しく考察を求めた。

〔方法〕 京都市内の寺、国立博物館(京都)、井筒博物館、四天王寺国際仏教大学図書館、実物資料により調査研究を行った。

〔結果〕 学僧達が大抵において師より伝承した法衣も年数を経ると共に損傷がひどくなり、それを補修に使用した布が大変高価なもの、即ち宮廷織物でありことが明らかになり、これに同時代の中心的宗教と公家、武家との密接な関係がうかがいしることも出来た。